

第4章 単純個別原価計算

1. 製品原価計算の方法

製品原価計算の方法は、その生産形態から2つに分類されます。

4章～6章

..... 生産形態を採用している工場に適用される。



大型の船舶や飛行機は大量見込生産になじみませんので、受注生産を行っています。あるいは、メーカーの下請工場もメーカーからの注文を受けてから部品の生産を行うため、受注生産です。これらの工場では、注文ごとに原価を集計する手続きである「個別原価計算」が適用されます。

7章～

..... 生産形態を採用している工場に適用される。

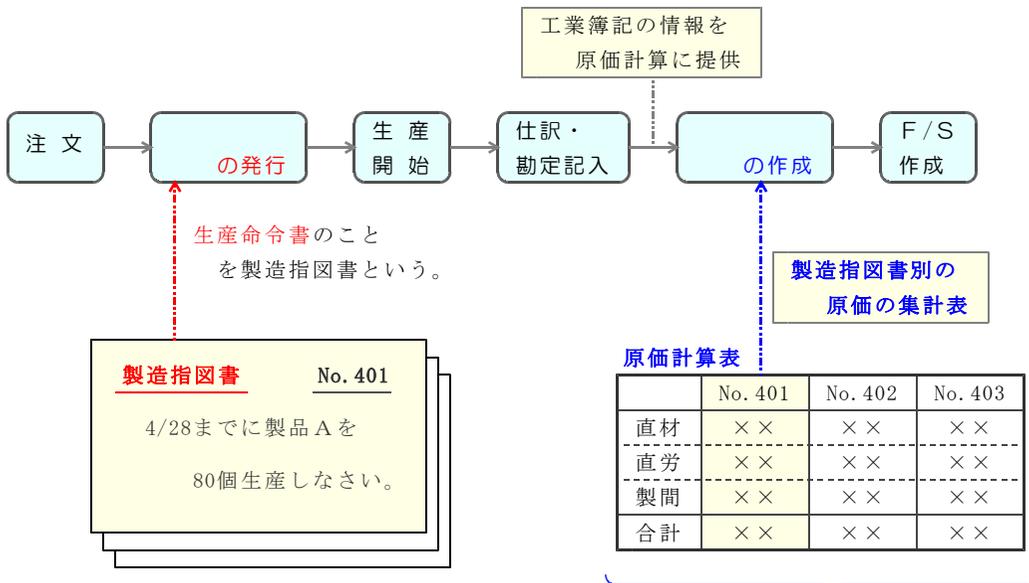
一方、カメラやテレビなどは同一規格品の大量見込生産が行われています。このような生産形態を採用している工場では、一期間の製造原価を完成品と期末仕掛品に配分する手続きである「総合原価計算」が適用されます。



注意

「製造指図書ごとに原価を集計する手続きが個別原価計算」、「一期間の製造原価を完成品と期末仕掛品に配分する手続きが総合原価計算」と理解することもできます。

2. 個別原価計算のタイム・テーブル

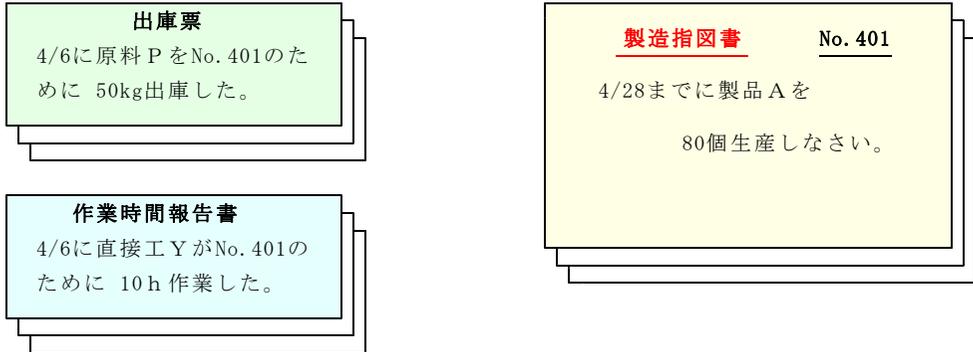


個別原価計算は、受注生産を行っている工場に適用されます。受注生産では、注文ごとに、仕様や数量が異なるのが一般的であるため、個別原価計算では、注文ごとに原価を集計します。

3. 個別原価計算の仕組み

3-1 製造直接費を各製造指図書へ賦課（直課）

製造指図書は、1つの注文に1枚ずつ発行され、それぞれに番号が付されています。そして、製造指図書番号別の材料の出庫量や作業時間を出庫票や作業時間報告書に記録しておきます。原価計算担当者は、その記録をもとに、製造指図書別の直接費の集計を行います。

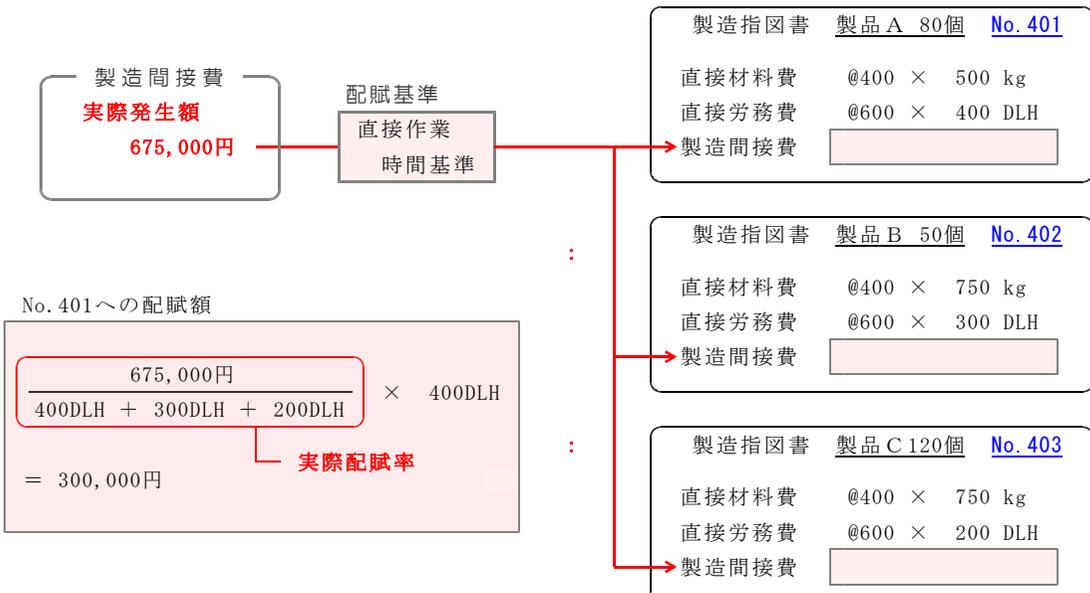


これらの資料をもとに、原価計算担当者が製造指図書別の原価を集計する。
その集計場所が「原価計算表」になります。

3-2 製造間接費を各製造指図書へ配賦

製造間接費は、工場長の給料、工場の光熱水費、工場建物の火災保険料など、製品に直接跡づけることが困難な製造原価です。しかし、制度上、製造間接費も製品原価に含めなければならないため、生産量、直接労務費、直接作業時間、機械時間などを基準にして、各製造指図書に配分する必要があります。この計算手続きを「製造間接費の配賦」といいます。

例えば、月間の製造間接費実際発生額 675,000円を直接作業時間基準で各製造指図書に配賦する場合には、以下のような計算になります。詳しくは、第5章で取り扱います。



3-3 原価計算表の作成

	製品 A 80個作れ	製品 B 50個作れ	製品 C 120個作れ
	No. 401	No. 402	No. 403
直接材料費			
直接労務費			
製造間接費			
合計	×××	×××	×××
備考	全量完成・引渡済	全量完成・未引渡	90個完成30個仕掛中
F/S			

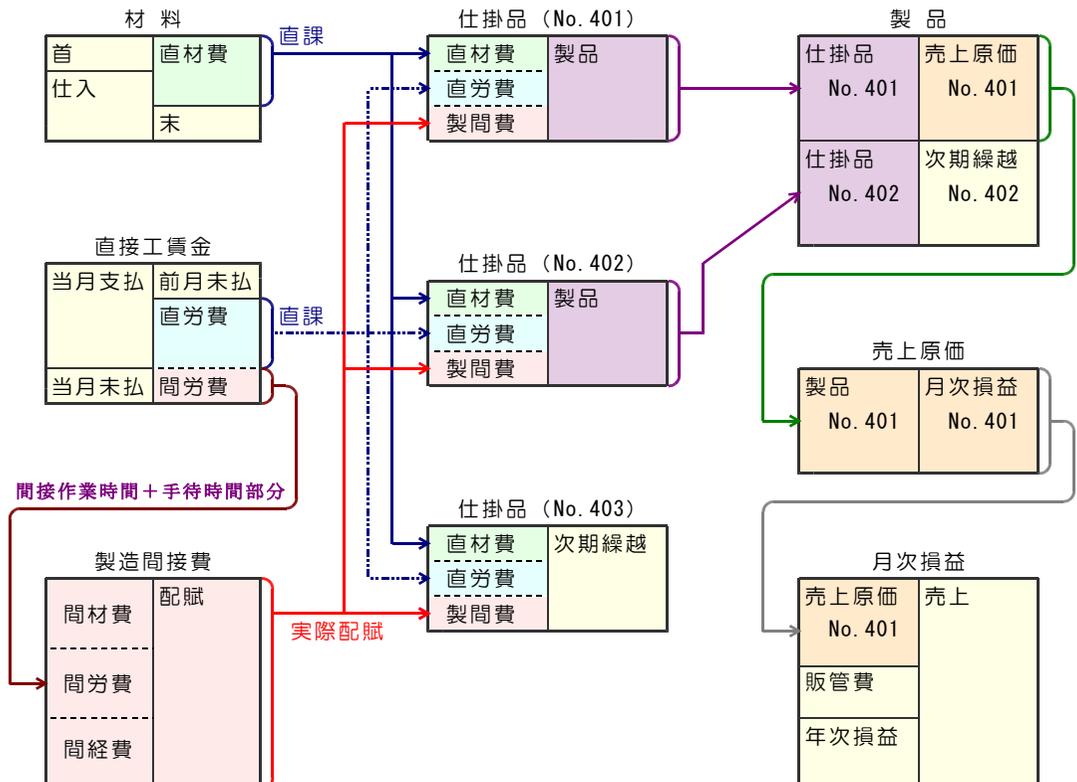
No.403に集計された原価を90個の完成品と30個の期末仕掛品に分けてちゃダメ。



注意

受注生産では、全量完成して初めて注文を完遂したと考えるため、1つでも仕掛中のものがあれば、その製造指図書の仕事は未了とされ、当該指図書に集計された原価全体が仕掛品原価とされます。

3-4 勘定連絡図



設例1 ～ 前期繰越のないケース

FIN製作所では、4月から電子機器の受注生産を行うこととなった。次に掲げる4月の資料を利用して、原価計算表を作成するとともに、仕掛品勘定、製品勘定の記入を行いなさい。

[4月の資料]

4月末時点で
判断すると・・・



No.401は全量完成、引渡し済み、
No.402は全量完成、未引渡し、
No.403は一部仕掛中ね。

1. 製造指図書別着手・完成・引渡し記録

製造指図書番号	生産命令量	製造着手日	完成日	引渡し日
401	製品A 80個	4/5	4/25	4/28
402	製品B 50個	4/10	4/30	5/3
403	製品C 120個	4/15	5/8	5/11

2. 製造指図書別の材料消費量、及び直接作業時間

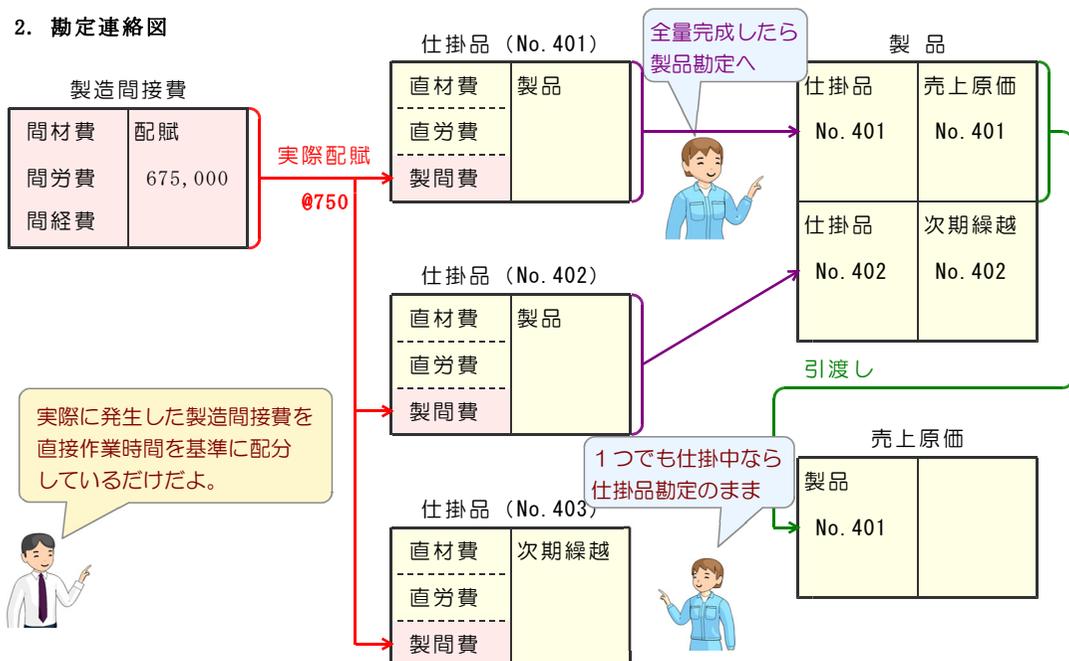
	No. 401	No. 402	No. 403	合計
直接材料消費量	500kg	750kg	750kg	2,000kg
直接作業時間	400時間	300時間	200時間	900時間

3. 直接材料の実際消費価格は 400円/kg、直接工の実際消費賃率は 600円/時間であった。
4. 製造間接費は、直接作業時間を基準に配賦している。なお、製造間接費の実際発生額は 675,000円であった。

1. 原価計算表の作成

	No. 401	No. 402	No. 403
直接材料費			
直接労務費			
製造間接費			
合計			

2. 勘定連絡図



3. 原価計算表

(単位：円)

	No. 401	No. 402	No. 403	合 計
直接材料費	200,000	300,000	300,000	800,000
直接労務費	240,000	180,000	120,000	540,000
製造間接費	300,000	225,000	150,000	675,000
合 計	740,000	705,000	570,000	2,015,000
備 考	全量完成・引渡済	全量完成・未引渡	仕掛中	/
財務諸表	売上原価	製 品	仕掛品	

4. 勘定記入

仕掛品 (No. 401)

直接材料費	200,000	製 品	740,000
直接労務費	240,000	/	
製造間接費	300,000	/	
	<u>740,000</u>		<u>740,000</u>

仕掛品 (No. 402)

直接材料費	300,000	製 品	705,000
直接労務費	180,000	/	
製造間接費	225,000	/	
	<u>705,000</u>		<u>705,000</u>

仕掛品 (No. 403)

直接材料費	300,000	次月繰越	570,000
直接労務費	120,000	/	
製造間接費	150,000	/	
	<u>570,000</u>		<u>570,000</u>

製 品

仕 掛 品	1,445,000	売上原価	740,000
/		次月繰越	705,000
	<u>1,445,000</u>		<u>1,445,000</u>

全量完成したら製品勘定へ、さらに、引き渡されたら売上原価勘定へ振り替えるんだっけ。



No. 401~No. 403の仕掛品勘定をまとめると

仕掛品

直接材料費	800,000	製 品	1,445,000
直接労務費	540,000	次月繰越	570,000
製造間接費	675,000	/	
	<u>2,015,000</u>		<u>2,015,000</u>

製 品

仕 掛 品	1,445,000	売上原価	740,000
/		次月繰越	705,000
	<u>1,445,000</u>		<u>1,445,000</u>

仕掛品勘定は、製造指図書別ではなく、1つにまとめたものを解答させられることが多いよ





設例2 ～ 前期繰越のあるケース

FIN製作所の次に掲げる4月と5月の資料を利用して、5月の仕掛品勘定、製品勘定の記入を行いなさい。（4月の資料は、設例1と同じです。）

〔4月の資料〕

1. 製造指図書別着手・完成・引渡し記録

製造指図書番号	生産命令量	製造着手日	完成日	引渡日
401	製品A 80個	4/5	4/25	4/28
402	製品B 50個	4/10	4/30	5/3
403	製品C 120個	4/15	5/8	5/11

2. 製造指図書別の材料消費量、及び直接作業時間

	No. 401	No. 402	No. 403	合計
直接材料消費量	500kg	750kg	750kg	2,000kg
直接作業時間	400時間	300時間	200時間	900時間

3. 直接材料の実際消費価格は400円/kg、直接工の実際消費賃率は600円/時間であった。

4. 製造間接費は、直接作業時間を基準に実際配賦している。なお、製造間接費の実際発生額は675,000円であった。



No.403は全量完成、引渡し済み、
No.501は全量完成、未引渡し、
No.502は一部仕掛中ね。

〔5月の資料〕

1. 製造指図書別着手・完成・引渡し記録

製造指図書番号	生産命令量	製造着手日	完成日	引渡日
501	製品A 90個	5/7	5/25	6/4
502	製品B 70個	5/20	6/2	6/10

2. 製造指図書別の材料消費量、及び直接作業時間

	No. 403	No. 501	No. 502	合計
直接材料消費量	—	575kg	1,075kg	1,650kg
直接作業時間	210時間	460時間	250時間	920時間

3. 直接材料の実際消費価格は420円/kg、直接工の実際消費賃率は580円/時間であった。

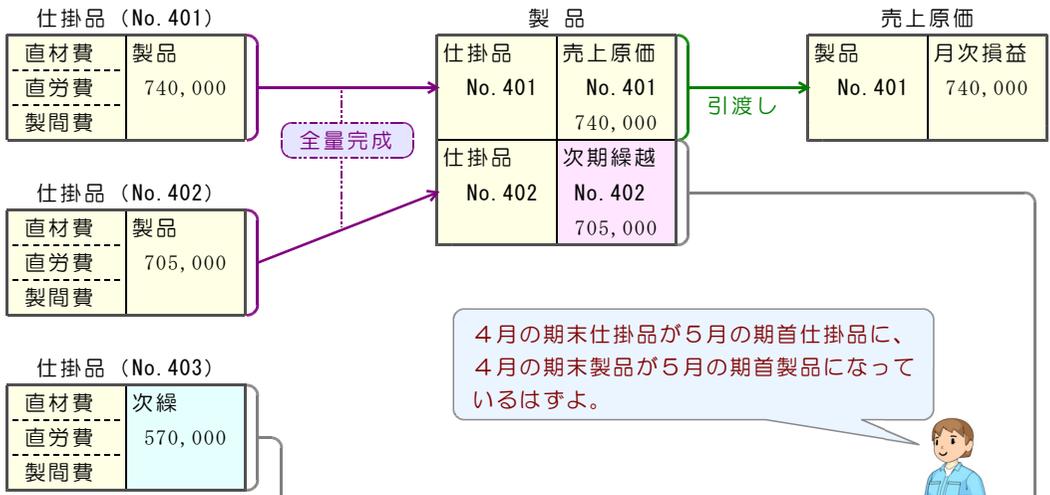
4. 製造間接費は、直接作業時間を基準に実際配賦している。なお、製造間接費の実際発生額は662,400円であった。

1. 原価計算表の作成

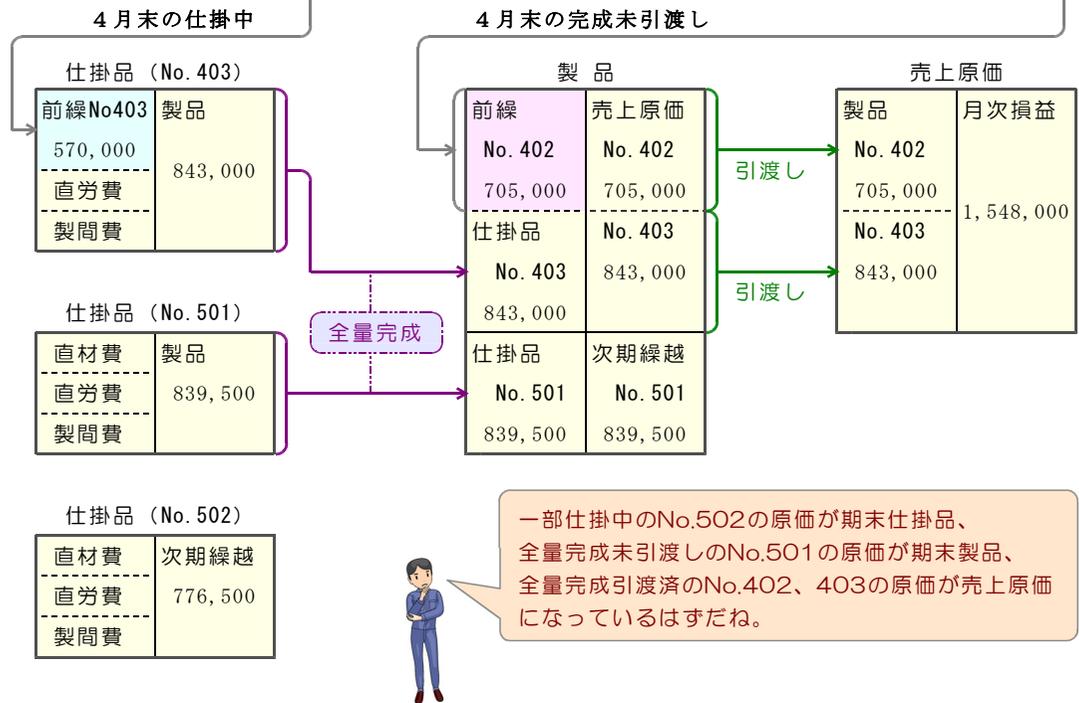
	No. 402	No. 403	No. 501	No. 502	合計
前月繰越	705,000円	570,000円	—	—	1,275,000円
直接材料費	—	—			@420×1,650kg
直接労務費	—				@580×920DLH
製造間接費	—				@720×920DLH
合計	705,000円	843,000円	839,500円	776,500円	3,164,000円
備考	前月完成・引渡済	当月完成・引渡済	当月完成・未引渡	仕掛中	
財務諸表	売上原価	売上原価	製品	仕掛品	

2. 勘定連絡図

(4月)



(5月)



3. 勘定記入

仕掛品		製品	
前期繰越	570,000	製品	1,682,500
直接材料費	693,000	次期繰越	776,500
直接労務費	533,600		
製造間接費	662,400		
	<u>2,459,000</u>		<u>2,459,000</u>

製品		売上原価	
前期繰越	705,000	製品	1,548,000
仕掛品	1,682,500	次期繰越	839,500
	<u>2,387,500</u>		<u>2,387,500</u>

3-5 補修可能な仕損品が発生した場合

受注生産では、受注した製品の全量を良品として引き渡す必要があるため、仕損品（不良品）が発生した場合には、補修する必要があります。例えば、No. 401の作業中に補修可能な仕損品が発生したため、補修製造指図書No. 401-Aを発行して補修を行った場合には、No. 401-Aへの集計額を良品の生産上、やむを得ないコストとして、No. 401の原価に負担させる処理（直接経費処理）を行うのが一般的です。

(1) 原価計算表の作成

	製品 A 80個作れ	製品 B 50個作れ	製品 C 120個作れ	補修製造指図書
	No. 401	No. 402	No. 403	No. 401-A
直接材料費	直接材料の消費価格 × 各指図書の材料消費量			
直接労務費	直接工の消費賃率 × 各指図書の直接作業時間			
製造間接費	配	賦	計	算
小計	×××	×××	×××	
仕損費		×××	×××	
合計	×××	×××	×××	
備考	全量完成・引渡済	全量完成・未引渡	90個完成30個仕掛中	
F/S	P/L 売上原価	B/S 製品	B/S 仕掛品	—

(2) 勘定連絡図

